

平成 30 年度「行政改革の推進に向けた外部有識者による公開ヒアリング」の結果

ヒアリング対象項目	見直しの方向性等	判定結果 () 内は判定の詳細 ※複数チェックあり	主な提言
<p>① 官民データ活用の推進 【振興部】</p>	<p>「官民データ活用推進基本法」に基づき、本県の都道府県官民データ活用推進計画を策定する必要があることから、</p> <p>① 官民データの活用を推進する上で最も重要な取組である「オープンデータの推進」に向けて、行政保有データのリスト化、オープンデータのニーズ調査等を実施</p>	<p>【4票】見直しの方向性は妥当 (1票) 引き続き取組を進めるべき (2票) 更に取組の具体化を進めるべき (1票) 取組をスピードアップすべき (1票) その他</p> <p>【2票】再検討が必要 (1票) 現状認識・課題認識を見直すべき (1票) 見直しの方向性に新たな視点を加えるべき (1票) その他</p>	<p><見直しの方向性は妥当></p> <p>○ 各部局のオープンデータに対する理解不足が課題。オープンデータ化の作業を円滑に進めるためには、各部局の理解を深める仕組み・取組が必要。</p> <p>○ 目標年次を明確にしたうえで、効率的・効果的な推進体制の構築を進めるべき。</p> <p><再検討が必要></p> <p>○ オープンデータの推進以外の4項目についても、検討して目標を定めたいと、次期 ICT 推進プランの策定を前倒しすべき。</p> <p>○ 情報化のスピードは早いことから、次期 ICT 推進プランの計画期間(5年間)は長過ぎる。</p>
<p>② 建設業許可業務の効率化 【建設部】</p>	<p>事業者へのサービスの維持・向上を図りつつ、許可業務の合理化・効率化を図る必要があることから、</p> <p>① 申請等を行う際に発生する負担の軽減に向けた取組の検討</p> <p>② 申請件数の増減に左右されにくい業務処理体制の構築に向けた取組の検討</p>	<p>【5票】見直しの方向性は妥当 (2票) 引き続き取組を進めるべき (2票) 更に取組の具体化を進めるべき (1票) 取組をスピードアップすべき</p> <p>【1票】再検討が必要 (1票) 現状認識・課題認識を見直すべき</p>	<p><見直しの方向性は妥当></p> <p>○ 申請者の負担等について実態を把握するとともに、許可業務の効率化のターゲットの絞り込み・明確化が必要。</p> <p>○ 手続きの電子化等における国の方向性が示されるのを待つだけでなく、県として取り組めるところから順次検討を進めるべき。</p> <p><再検討が必要></p> <p>○ 顧客満足度の視点で業務の効率化を進めるべき。</p>
<p>③ 食品工業技術センターの利用効率の向上・機能強化 【産業労働部】</p>	<p>センター内の食品工学棟内に一部利用効率が悪い研究室がある。また、食品業界からの要望に対応できていない課題があることから、</p> <p>① 食品工学棟の部屋のレイアウトを変更し、業界ニーズに対応できる環境を整備したうえで、食品工学棟を主として業界ニーズ対応型施設として活用することを検討</p> <p>② 研究テーマの有効性を定期的に検証し、今後の対応を検討</p>	<p>【3票】見直しの方向性は妥当 (1票) 引き続き取組を進めるべき (1票) 更に取組の具体化を進めるべき (1票) 取組をスピードアップすべき</p> <p>【3票】再検討が必要 (1票) 現状認識・課題認識を見直すべき (2票) 見直しの方向性に新たな視点を加えるべき (1票) その他</p>	<p><見直しの方向性は妥当></p> <p>○ 業界ニーズへの対応を平成 32 年度以降としているが、研究テーマの有効性の検証については、年次ごとに前倒しして随時実施すべき。</p> <p><再検討が必要></p> <p>○ 食品工学棟だけでなく、本館・試作棟を含めた有効利用の検討が不十分。</p>
<p>④ あいちエコスタンダードの推進 【環境部】</p>	<p>「愛知県庁の環境保全のための行動計画」(あいちエコスタンダード) で設定した目標の達成が困難な状況であることから、</p> <p>① 取組状況の見える化(各所属別の1人当たり紙購入量等を提示、成果の順位付け等)により、管理職を中心に職員の意識喚起を図る</p> <p>② 改善事例を提示し、各所属における取組を促進する</p>	<p>【5票】見直しの方向性は妥当 (1票) 引き続き取組をすすめるべき (2票) 更に取組の具体化を進めるべき (2票) その他</p> <p>【1票】再検討が必要 (1票) 現状認識・課題認識を見直すべき (1票) 見直しの方向性に新たな視点を加えるべき</p>	<p><見直しの方向性は妥当></p> <p>○ 数値目標を達成できない原因構造をより明らかにすべき。</p> <p>○ エコアップ行動の思い切ったレベルアップが必要。</p> <p>○ 業務の効率化によるエネルギー削減も可能であることから、業務改善、業務の効率化の枠組みを含めて検討すべき。</p> <p><再検討が必要></p> <p>○ 事務局の努力だけでは目標達成は困難であるため、内部監査をもっと厳しく実施すべき。</p>